

**Oracle® WebCenter Sites**

バックアップおよびリカバリ・ガイド

11g リリース 1 (11.1.1)

部品番号 : B69407-01

2012 年 4 月

Oracle® WebCenter Sites バックアップおよびリカバリ・ガイド, 11g リリース 1 (11.1.1)

部品番号 : B69407-01

原本名 : Oracle® WebCenter Sites Backup and Recovery Guide, 11g Release 1 (11.1.1)

Copyright © 2012 Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバースエンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントが、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供される場合は、次の Notice が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアは、危険が伴うアプリケーション (人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む) への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、それを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性があり得ます。

Intel および Intel Xeon は Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices の商標または登録商標です。UNIX は、X/Open Company, Ltd のライセンスによる登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても、一切の責任を負いかねます。

## 目次

<b>このガイドについて</b> .....	<b>5</b>
対象読者 .....	5
表記規則 .....	5
サード・パーティのライブラリ .....	6
<b>バックアップとリカバリ</b> .....	<b>7</b>
前提条件 .....	8
バックアップとリカバリの手順 .....	8
WebCenter Sites のインストール・ディレクトリ .....	8
Shared ディレクトリ .....	9
Web アプリケーション .....	10
WebCenter Sites データベース .....	12
LDAP .....	15
リカバリしたアプリケーションの実行 .....	15



## このガイドについて

このドキュメントには、Oracle WebCenter Sites コンポーネントをバックアップするための一連のガイドラインと手順が記載されています。アプリケーション・サーバーとデータベース・サーバーの設定またはカスタマイズのバックアップに関する情報は記載されていません。

このドキュメントに記載されている Oracle WebCenter Sites アプリケーションは、以前の FatWire 製品です。Oracle WebCenter Sites は、以前は FatWire Content Server と呼ばれていたアプリケーションの現在の名前です。このガイドでは、Oracle WebCenter Sites を WebCenter Sites と呼ぶこともあります。

### 対象読者

このドキュメントは、WebCenter Sites のインストール経験があるインストール・エンジニアとシステム・エンジニアを対象としています。このドキュメントのユーザーは、WebSphere、Tomcat、WebLogic などの Web アプリケーションのバックアップとリカバリに関する包括的な知識を持っている必要があります。またユーザーは、WebCenter Sites アプリケーションのインストール経験があり、データベース・サーバーのバックアップとリカバリに精通している必要があります。

### 表記規則

このガイドでは、次の表記規則を使用します。

- **太字**は、ユーザーが選択するグラフィカル・ユーザー・インタフェース要素を示します。
- *斜体*は、ドキュメントのタイトル、強調、またはユーザーが特定の値を指定する変数を示します。
- 等幅フォントは、ファイル名、URL、サンプル・コード、または画面に表示されるテキストを示します。
- 等幅太字フォントは、コマンドを示します。

## サード・パーティのライブラリ

Oracle WebCenter Sites およびそのアプリケーションには、サード・パーティのライブラリが含まれています。詳細は、*Oracle WebCenter Sites 11gR1: サード・パーティのライセンス*を参照してください。

## バックアップとリカバリ

このドキュメントは、次の項で構成されています。

- [前提条件](#)
- [バックアップとリカバリの手順](#)
- [リカバリしたアプリケーションの実行](#)

## 前提条件

- WebCenter Sites のどの部分をバックアップする場合でも、その前にアプリケーション・サーバーをシャットダウンしてください。WebCenter Sites の動的なバックアップを作成する必要がある場合は、サイトが使用中でないこと、およびアプリケーション・サーバーへのリクエストが発生していないことを確認してください。
- WebCenter Sites のどの部分をリカバリする場合でも、その前にアプリケーション・サーバーをシャットダウンしてください。

## バックアップとリカバリの手順

- [WebCenter Sites のインストール・ディレクトリ](#)
- [Shared ディレクトリ](#)
- [Web アプリケーション](#)
- [WebCenter Sites データベース](#)
- [WebCenter Sites データベース \(統計を除く\)](#)
- [LDAP](#)

## WebCenter Sites のインストール・ディレクトリ

### バックアップ

WebCenter Sites のインストール・ディレクトリの JAR ファイルまたは TAR ファイルを作成します。

次に例を示します。

```
tar -cvf ContentServer_backup.tar /u01/CS/Install
jar cvf ContentServer_backup.jar /u01/CS/Install
```

### リカバリ

バックアップした WebCenter Sites インストール・ディレクトリの JAR ファイルまたは TAR ファイルを解凍します。

次に例を示します。

```
tar -xvf ContentServer_backup.tar
jar xvf ContentServer_backup.jar
```

## Shared ディレクトリ

### バックアップ

#### 注意

Shared ディレクトリのバックアップは、このディレクトリが WebCenter Sites のインストール・ディレクトリ内にあり、**さらに**そのインストール・ディレクトリがバックアップされている場合は不要です。

Shared ディレクトリをバックアップするには、そのディレクトリの JAR ファイルまたは TAR ファイルを作成します。

次に例を示します。

```
tar -cvf Shared_backup.tar /u01/CS/Shared
jar cvf Shared_backup.jar /u01/CS/Shared
```

### リカバリ

#### 注意

Shared ディレクトリのリカバリは、このディレクトリが WebCenter Sites のインストール・ディレクトリ内にあり、**さらに**そのインストール・ディレクトリがリカバリされている場合は不要です。

Shared ディレクトリをリカバリするには、バックアップした Shared ディレクトリの JAR ファイルまたは TAR ファイルを解凍し、それを使用して既存のディレクトリを置換します。

次に例を示します。

```
tar -xvf Shared_backup.tar
jar xvf Shared_backup.jar
```

## Web アプリケーション

表 1 には、バックアップおよびリカバリする必要がある、WebCenter Sites Web アプリケーション内のファイルの種類がまとめられています。

**表 1:** .war ファイルおよび .ear ファイルのバックアップとリカバリに関する情報

.war と .ear の デプロイメント方法	バックアップ	リカバリ
未展開。  WebSphere 上の WebCenter Sites の 場合	WebCenter Sites のインストール・ディレクトリがバックアップされている場合は不要です。  (.war ファイルおよび .ear ファイルは WebCenter Sites のインストール・ディレクトリ <cs_install_dir>/ominstallinfo/app/ に格納されます)	<a href="#">11 ページ</a> の手順を参照してください。
展開済。  次のサーバー上の WebCenter Sites の 場合： <ul style="list-style-type: none"> <li>• Tomcat</li> <li>• WebLogic</li> </ul>	ファイルに開発上の変更を加える必要はありません。 <sup>a</sup> 次の場合、バックアップは不要です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 開発中にファイルが変更されていない。 および</li> <li>• WebCenter Sites のインストール・ディレクトリがバックアップされている。</li> </ul> (.war ファイルおよび .ear ファイルは WebCenter Sites のインストール・ディレクトリ <cs_install_dir>/ominstallinfo/app/ に格納されます)	<a href="#">11 ページ</a> の手順を参照してください。
	ファイルに開発上の変更を加える場合。 <sup>a</sup> バックアップが必要です。 <a href="#">11 ページ</a> の手順を参照してください。	<a href="#">12 ページ</a> の手順を参照してください。

- a. 開発上の変更とは、コンテンツ、データ・モデル、テンプレート・コード、公開先などの変更を意味します。

## 未展開のファイル

### バックアップ

10 ページの表 1 を参照してください。

### リカバリ

1. WebCenter Sites アプリケーションをアンデプロイします。
2. WebCenter Sites のインストール・ディレクトリをリカバリします (手順は 8 ページを参照してください)。
3. WebCenter Sites アプリケーションを再デプロイします。

## 展開済のファイル

### バックアップ

開発上の変更が加えられていない展開済ファイルをバックアップするには

10 ページの表 1 を参照してください。

開発上の変更が加えられた展開済ファイルをバックアップするには

デプロイした WebCenter Sites Web アプリケーションの JAR ファイルまたは TAR ファイルを作成します。バックアップにラベルを指定し、圧縮された cs.war ファイルと区別します。

次に例を示します。

```
tar -cvf cs_web_backup.tar /u01/software/Tomcat/webapps/cs
jar cvf cs_web_backup.jar /u01/software/Tomcat/webapps/cs
```

### リカバリ

開発上の変更が加えられていない展開済ファイルをリカバリするには

1. アプリケーション・サーバーを停止します。
2. 展開済の Web アプリケーションを削除します。

次に例を示します。

```
rm -rf /u01/software/Tomcat/webapps/cs/*
```

3. WebCenter Sites のインストール・ディレクトリをリカバリします (手順は 8 ページを参照してください)。
4. バックアップした WebCenter Sites Web アプリケーションの JAR ファイルを解凍します。

次に例を示します。

```
cd /u01/software/Tomcat/webapps/cs
jar xvf <cs_install_dir>/ominstallinfo/app/cs.war
```

開発上の変更が加えられた展開済ファイルをリカバリするには

1. アプリケーション・サーバーを停止します。
2. 展開済の Web アプリケーションを削除します。  
`rm -rf /u01/software/Tomcat/webapps/cs`
3. バックアップした WebCenter Sites Web アプリケーションの JAR ファイルまたは TAR ファイルを解凍します。  
`cd /u01/software/Tomcat/webapps`  
`tar -xvf <path to backup directory>/cs_web_backup.tar`

## WebCenter Sites データベース

### バックアップ

- [SQL Server](#)
- [Oracle 11g](#)
- [DB2 9.7](#)

### SQL Server

SQL 2005/2008/2008R2 をバックアップするには

1. **SQL Server Management Studio** を開きます。
2. データベース・サーバーに接続します。
3. 「**Databases**」を展開します。
4. バックアップするデータベースを右クリックします。「**Tasks**」 → 「**Backup**」をクリックします。
5. 「**Backup type**」で「**Full**」を選択します。「**Destination**」で「**Add**」をクリックします。
6. バックアップ・ファイルのパスとファイル名を入力します。「**OK**」をクリックします。
7. 「**Destination**」で、新しく作成したバックアップの場所を選択します。
8. 「**OK**」をクリックします。

## Oracle 11g

### Oracle 11g をバックアップするには

1. サーバーに Oracle ユーザーとしてログインします。
2. ORACLE\_HOME を Oracle データベース・ディレクトリに設定し、ORACLE\_SID をデータベース名に設定します。
3. sqlplus に sys としてログインします。その後、次の手順を実行します。
  - a. create directory sql を使用して、エクスポートしたデータの格納先となる OS ディレクトリにマップします。次に例を示します。

```
SQL> create directory exp_dp_dir as '/u01/backup/exports';
```
  - b. データベースのエクスポートとディレクトリへのアクセスを行うための権限を付与します。次に例を示します。

```
SQL> grant read,write on directory exp_dp_dir to system;SQL> grant EXP_FULL_DATABASE to system
```
4. expdp コマンドを実行してエクスポートを開始します。次に例を示します。

```
expdp system/<password>  
  DIRECTORY=exp_dp_dir DUMPFILE=<file_name>.dmp FULL=y  
  SCHEMA=<YOUR_SCHEMA>;
```

## DB2 9.7

### DB2 9.7 をバックアップするには

1. サーバーに db2inst ユーザーとしてログインします。
2. 次のコマンドを実行します。

```
db2 force applications all
```
3. 次のコマンドを実行します。

```
db2 backup db <db_name> to <backup_dir>
```

#### 注意

コマンドが完了したら、タイムスタンプをメモします。このタイムスタンプは、データベース・バックアップ・ファイル名に含まれます。

## リカバリ

- [SQL Server](#)
- [Oracle 11g](#)
- [DB2 V9.7](#)

### SQL Server

#### SQL 2005/2008/2008R2 をリカバリするには

1. **SQL Server Management Studio** を開きます。
2. 「**Databases**」を展開します。
3. リストアするデータベースを右クリックします。「**Tasks**」 → 「**Restore**」 → 「**Database**」を選択します。
4. 「**Source for restore**」で「**From database**」を選択します。
5. 「**Select the backup sets to restore**」で、最新のバックアップを選択します。
6. 一番上にある「**Script**」をクリックします。  
この手順により、restore 文を含む問合せエディタが開きます。
7. **REPLACE** を **WITH** の後に追加することによって問合せを編集します。  
これでデータベース・ログを上書きできます。
8. 「**Execute**」をクリックします。

### Oracle 11g

#### Oracle 11g をリカバリするには

1. サーバーに Oracle ユーザーとしてログインします。
2. ORACLE\_HOME を Oracle データベース・ディレクトリに設定し、ORACLE\_SID をデータベース名に設定します。
3. \$ORACLE\_HOME/bin に移動します。
4. 次のコマンドを実行します。

```
./impdp system/<password> DIRECTORY=exp_dp_dir  
DUMPFILE=<file_name>.dmp SCHEMAS=<YOUR_SCHEMA>;
```

### DB2 V9.7

#### DB2 V9.7 をリカバリするには

1. サーバーに db2inst ユーザーとしてログインします。
2. 次のコマンドを実行します。

```
db2 force applications all
```
3. 次のコマンドを実行します。

```
db2 restore db <db_name> from <backup_dir> replace existing
```

## LDAP

### バックアップ

LDAP ブラウザを使用し、LDAP 構成をエクスポートします。

### リカバリ

クリーンな LDAP サーバーを用意します。次に LDAP ブラウザを使用し、バックアップした LDAP 構成をインポートします。

## リカバリしたアプリケーションの実行

リカバリした WebCenter Sites アプリケーションを実行するには

1. アプリケーション・サーバーを起動する前に、次の手順を実行します。

a. 次のように検索索引を消去します。

```
rm -rf <shared_dir>/lucene/Global/*
```

b. Tomcat を使用している場合は、次のようにアプリケーション・サーバー・キャッシュをクリアします。

```
rm -rf <server_dir>/tmp/*
```

```
rm -rf <server_dir>/work/*
```

### 注意

WebLogic アプリケーション・サーバーの場合、キャッシュはアプリケーションを再デプロイするときにクリアされます。

c. Tomcat または WebLogic を使用している場合は、次のようにコンパイル済 JSP を消去します。

```
rm -rf <web_app_dir>/jsp/cs_deployed/*
```

2. アプリケーション・サーバーを起動した後、すべてのキャッシュが同期されていることを確認します。

